慢性痛に対する新たな治療法が行えるようになりました。

当院では、首・膝・腰・肩などの慢性的な痛みに対して新たな治療を行うための治療機器「トップリージョンジェネレータTLG-20」を導入しました。
この機器は、高周波電流を利用して、神経の刺激や凝固を行うことで治療を行うものです。
これらはパルス高周波法・高周波熱凝固法と呼ばれ、一部の長引く痛みに対して有効な治療法とされています。

パルス高周波法とは

パルス高周波法は、神経ブロックの一種で、局所麻酔薬ではなく、特殊な針の先端から神経に「高周波エネルギー」を間欠的に加える治療法です。これは、42°C以下の温度で電場を発生させ、痛みを伝える神経の働きを穏やかに調整することで鎮痛効果を得ます。熱による神経の破壊を行わないため、神経を傷つけず、しびれや筋力低下といった副作用が起こりにくいのが大きな特長です。
従来の神経ブロックが一時的な効果であるのに対し、本治療は 3〜6ヵ月と長期間の痛みの緩和が期待でき、繰り返しの治療で痛みの再発がなくなる方もいます。薬を減らせる可能性もあります。この治療は、首、肩、腰、股関節、膝といった慢性的な痛みに対して効果が期待でき、特に変形性膝関節症や腰椎疾患、肩関節周囲炎などに有効です。入院は不要で、外来で日帰りの治療が可能です。

トップ リージョンジェネレータ TLG-20

医療法人社団苑田会　苑田会人工関節センター病院